日本医師会災害医療チーム(JMAT)

3月11日の東日本大震災から半年が経過しました。茨城県内の人的被害は死亡が25名と東北3県と比べて少なかったのですが、住宅の被害は全壊が2,293棟、半壊が16,232棟、一部損壊が139,346棟と大変大きなものでした。被害を受けられた皆様には心からお見舞い申し上げます。

当院では、人的被害も建物の被害もなかったのですが、 停電および断水のために10日間診療を休まざるを得ず、 多くの皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び致します。 今回は大震災時の医療活動について書かせてもらいます。

茨城県医師会は3月13日に茨城県医師会東北地方太平洋沖地震医療対策本部を設置し対応しました。

茨城県内でもっとも避難者の多かった日は3月12日で、 77,285人でした。避難所の数も594カ所と大変な 数が作られました。茨城県医師会として最も気がかりだっ

たことは医療が必要な人への対応でした。停電の為に電話が通じず、各市郡医師会との連絡が取れないため大変心配しましたが、各市郡医師会で自主的に避難所の巡回や救護所などを設置し、県民の安全と安心を守るための活動を行っていたことを知り安心しました。

透析患者の転院や福島県からの患者の受け入れ医療機関の斡旋など困難を極めましたが、筑波大学をはじめとした医療関係者の協力で何とかしのげたことは大変ありがたいことでした。

マスコミにはあまり取り上げられませんでしたが、日本医師会災害医療 チーム(JMAT)の活動も特筆されるものでした。

阪神大震災時に、救急医療チームの活動が有れば500人の命が助けられたと言われました。これを教訓として政府は大規模災害時に素早く被災地に駆けつけて救急治療を行うための医療チームを作りました。災害派遣医療チーム(DMAT)といいます。災害発生から48時間の医療を担います。

昨年3月、日本医師会は災害救急期をすぎた災害医療と健康管理に対して支援を行うために日本医師会災害医療チーム(JMAT)の構想を打ち出しました。災害発生とともに被災県以外の全国医師会にJMATの派遣を要請しました。

東日本大震災では津波により生死がはっきりと分かれたため、4 8 時間 以内の救急医療を必要とされた人はあまりいませんでした。このためにD MATの出番は少ないものでした。しかし、陸前高田に代表されるように 壊滅的な被害を受け多くの避難者が発生しました。まさに J M A T の活動 が必要になったのでした。

住宅と同様に医療機関も大きな被害を受けて診療できなくなりました。 宮城県では8病院と60診療所が失われたとのことです。岩手県では18 6医療機関が全壊あるいは半壊し診療不能となりました。福島県でも多く の医療機関が同様に診療出来ませんでした。被災地では、自らが被災者に もかかわらず多くの医師が避難所や救護所で避難者の医療にあたりまし た。しかし、医療器材も薬剤も流失し必要な医療を提供できませんでした。

このため、日本医師会では、全国から医薬品を集め、米軍の協力を得て 空路宮城県と岩手県に送り対応しました。さらに、初めて日本医師会災害 医療チーム(JMAT)が結成され、東北三県と茨城県に派遣されました。

茨城県にもまず、3月17日に鹿児島県医師会が支援に入りました。その後、熊本県、佐賀県、宮崎県、福岡県、埼玉県の各医師会の12チームが北茨城市立総合病院および高萩協同病院の支援に来県しました。常勤医の負担を減らす為に当直勤務をし、救護所にて避難者の応急処置等をして頂きました。

東北三県および茨城県に、7月11日 までに1377チーム、6000名を超 える医師、看護師、薬剤師などが派遣さ





れました。チームは被災地にある病院・診療所の日常診療の支援のほか、 避難所・救護所で救急患者さんはもとより、糖尿病や高血圧などの慢性疾 患の患者さんの治療にあたりました。皆さん、自分の診療を休んで参加し ています。被災地の多くの方に感謝されたと聞いています。

初めての事業のために同じ被災地に多くのチームが集まったり、整形外科や眼科などが少なかったりとこれから検証しなければならないことも多いようですが、概ね成功したようです。

今後も茨城県医師会は、日本医師会とともに県民の生命と健康を守るための活動を続けていきます。

理事長 小松 満

クフランス学会出張だより

昨年、今年と2回、フランスでの発表の機会をいただきました。患者さんにはその都度1週間程度の当院での診療の空白を作り、大変申し訳ございませんでした。今回あっぷる通信の紙面をお借りしまして、ご報告致したいと思います。

まず、何故フランスなのかということですが、私自身、平成4年に日仏整形外科学会(AFJO)という組織の交換留学制度で、リヨンの膝関節の専門病院に短期留学をさせていただきました。帰国後も 個人的に AFJO との関係を大事にしており、アメリカよりはヨーロッパ、なかでもフランスへの思い入れを強く持っておりました。

昨年、2010年11月のパリでの学会は、フランス整形災害外科学会(SOFCOT)が日本との友好関係の中で日本人の為の枠(Forum Japon)をわざわざ作ってくれまして、日本の整形外科医を招待する形で行われました。私も運良く参加でき、

変形性膝関節症に対して当院でも行っている高位脛骨骨切り術と、人工膝関節片側置換術のどちらが患者さんの術後の生活上の満足度 (QOL) が高いかを話してきました。この発表に関しては、患者さんにアンケートなど郵送のご協力もいただきありがとうございました。



写真 1

今年、2011年6月の学会は、2年に一度のAFJOがワインで有名なボルドーで開催され、膝の中に良性のかたまりができ、時に血が貯まる原因となる色素性絨毛結節性滑膜炎(わかりにくい病名ですみません!)の関節鏡による手術経験を発表しました。発表は結果的に無事終わりましたが、フランス国内の飛行機移動でボルドー空港に到着した際、フランスでは日常茶飯事と言われるスーツケースの紛失という事態に直面し、巨大ワインの飾られた荷物受取場で調子に乗っていた私を青ざめさせました(写真 1)。

何とか学会に同行していた渡辺先生にネクタイとワイシャツをお借りし、発表の格好はとりつくることができました(写真 2)。帰国約2週間後に日本に届いたスーツケースには、時既に遅しという感じで、荷物遅延の保障もなく、ほとんどメリットはありませんでした。唯一良かった事は、ボルドーのデパートで自分でワイシャツ、パンツ、シャツを買わざるを得ず、フランス



写真 2

人のデパートガール?に首回りをメジャーで測ってもらえたことでした。

今後も時にやむを得ず外来を休む期間があると思いますが、いつもさぼっているとは思わないで暖かい目でみていただければと思います。

副院長 星 忠行

ただほど高いものはない!! 催眠商法に引っかかるな!

先達て、女性と男性二人の高齢患者さんから相談を受けました。「健康器 具を使ってただで治療してくれるところがあり、大勢の老人が集まってい るがどうなのでしょうか。」というものです。

私は、「そんなに大勢の人にただで治療してくれるような善人がこの世の中にいると思えますか?あとで、安物の医療器具を高額で売ろうとしているんです。催眠商法といって、年寄りをだましてもうける悪徳商人ですよ」と言いました。

女性の患者さんは「そうですよね」と納得したようでした。この人は恐らくだまされないでしょう。しかし、男性の患者さんは痛みが軽くなったからと不満そうでした。健康器具がいくらするのかと聞くと安い方が40万円、高い方が50万円とのことです。この患者さんは買わされたのではないかと心配しています。

催眠商法は高齢者や主婦を集めて、ただで治療をしたり、無料プレゼントをえさにして、電気温熱健康器具や家庭用医療機器、低周波治療器、電気マッサージ器などを売りつけるものです。遠赤外線高級布団や磁気マットレスなどの場合も有ります。

この悪徳商法は3,4年おきにやってくるようです。

振り込み詐欺が騒がれてから大分時間がたっているのにまだひっかかる 人がいます。どんなに注意されても聞く耳をもたない人はいるものです。

家族にこのようなところに通っている人がいたら、行かせないことが被害を防ぐ方法です。

ただほど高いものはありません。悪徳商法に注意してください!